

# 2022年度 第1四半期決算 カンファレンスコール

2022年8月4日

取締役CFO

半田 宗樹

01

2022年度 第1四半期の決算概況

---

02

国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況

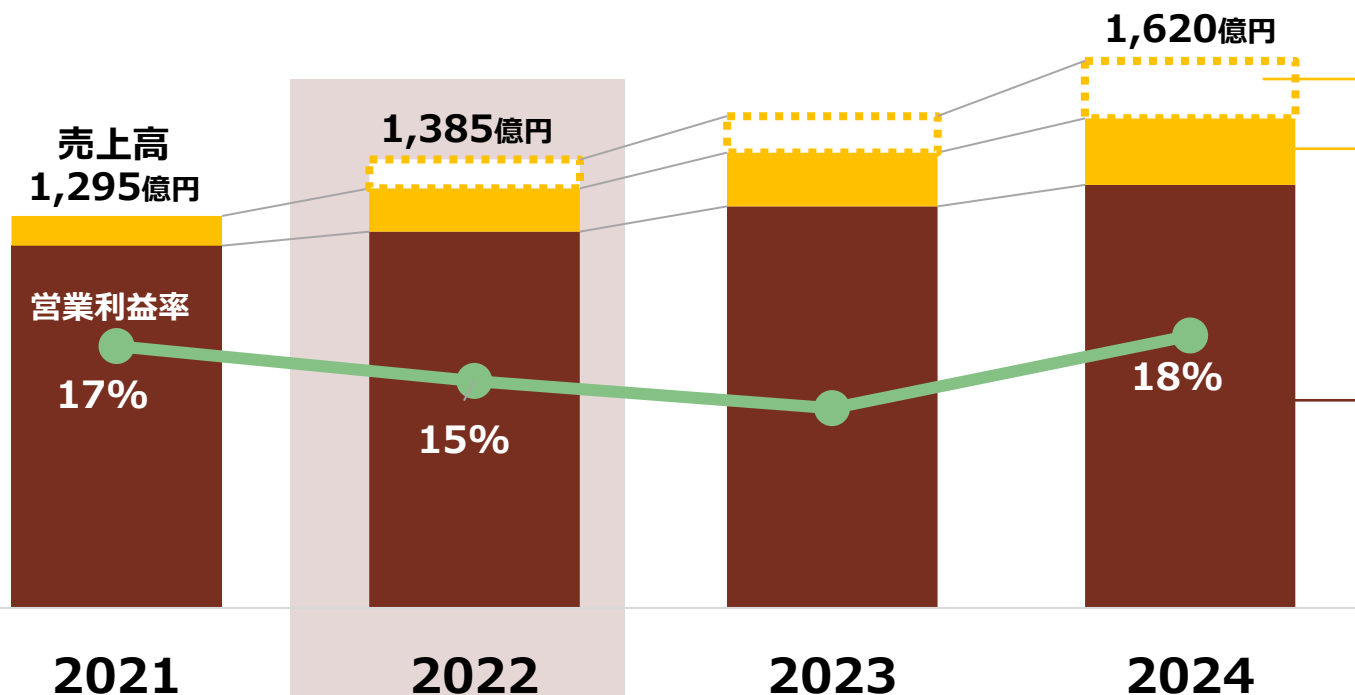
---

03

2022年度業績予想

---

## 第1期中期経営計画



### 中国事業 (製剤PF)

- 中成薬事業への参入

### 中国事業 (生薬PF)

- 高成長と着実な利益貢献  
(売上高CAGR 2022-2024 : **30%**)

### 国内事業

- 安定成長と漢方関連新規領域の開拓  
(売上高CAGR 2022-2024 : **5%**)

### ●売上高

国内  
事業

- ・ e-プロモーションとMR活動の融合により、医療従事者一人ひとりに合わせた漢方ソリューションの提供を通じて漢方市場を拡大

中国  
事業

- ・ 高品質な原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の販売を拡大

### ●売上原価

- ・ 中国事業の販売増加、円安、物価高騰等
- ・ 販売数量増による生産の効率化

### ●販管費

- ・ 天津工場の本稼働に向けたバリデーション等の一時的な費用
- ・ 中国事業の人員増、IT基盤構築費用等の先行費用

# 2022年度 第1四半期の決算概況

【百万円】	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年比	
			金額	伸長率
<b>売上高</b>	<b>31,771</b>	<b>34,417</b>	<b>+2,645</b>	<b>+8.3%</b>
国内事業	—	31,562	—	—
中国事業	—	2,855	—	—
【参考】国内	29,513	31,562	+2,048	+6.9%
【参考】海外	2,257	2,855	+597	+26.5%
<b>売上原価</b>	<b>15,298</b>	<b>16,462</b>	<b>+1,164</b>	<b>+7.6%</b>
<b>販管費</b>	<b>10,321</b>	<b>11,601</b>	<b>+1,280</b>	<b>+12.4%</b>
<b>営業利益</b>	<b>6,152</b>	<b>6,353</b>	<b>+201</b>	<b>+3.3%</b>
国内事業	—	6,404	—	—
中国事業	—	△50	—	—
<b>経常利益</b>	<b>7,247</b>	<b>8,665</b>	<b>+1,418</b>	<b>+19.6%</b>
親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>	<b>5,389</b>	<b>6,632</b>	<b>+1,243</b>	<b>+23.1%</b>
PL換算レート（円/元）	16.37	18.32	—	—

## 決算ポイント：増収増益の決算

### 売上高

- 医療用漢方製剤（129処方）：30,277百万円（6.7%伸長）
- 一般用漢方製剤等（国内）：914百万円（18.5%伸長）
- 中国事業（生薬プラットフォーム）：2,855百万円

### 売上原価

- 棚卸資産減による未実現利益の減少
- 原価率は△0.4ptの47.8%

### 販管費

- 研究開発費の増加
- 天津工場の本稼働に向けた一時的な費用
- 販管費率は+1.2ptの33.7%

### 営業利益

- 円安の影響は△191百万円
- 中国事業は製剤プラットフォームを中心とした基盤構築の費用により赤字
- 営業利益率は△0.9ptの18.5%

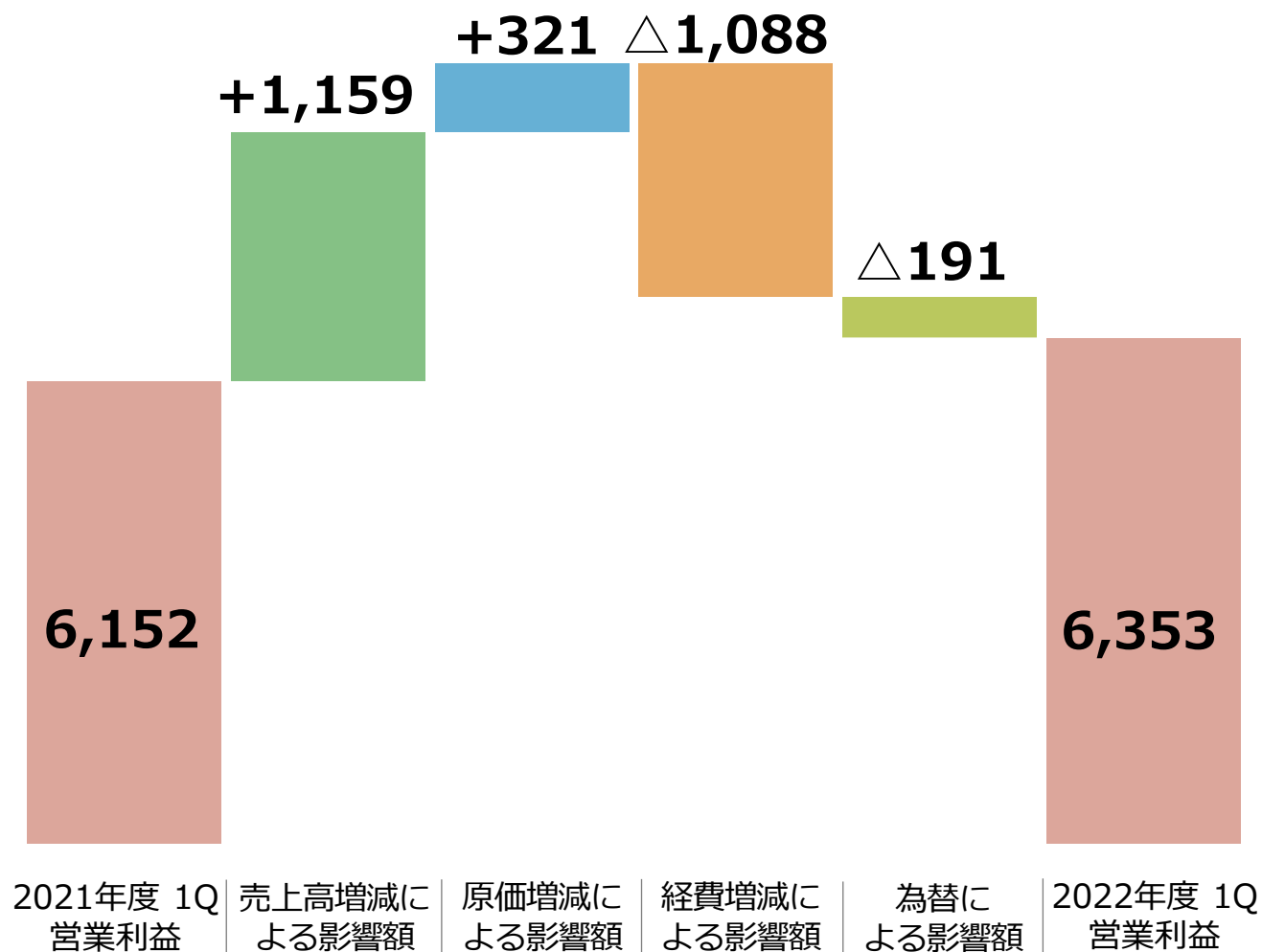
### 経常利益

- 在外子会社への貸付金に係る為替差益1,999百万円

# 営業利益の増減要因（前年同期比）

(百万円)

(百万円)



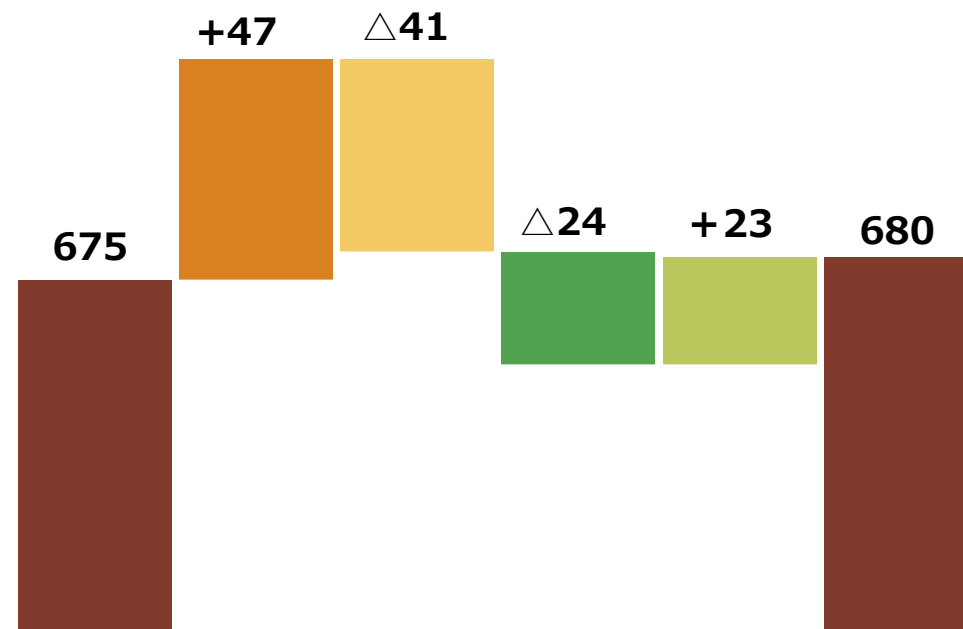
<b>売上高増減影響額 +1,159 内訳</b>	
国内	+1,120
海外	+39
<b>売上原価増減影響額 +321 内訳</b>	
生薬費（国内）	+438
原資材費（国内）	△63
加工費等（国内）	△169
外部販売（海外）	+115
<b>経費増減影響額 △1,088 内訳</b>	
研究開発費	△350
減価償却費	△248
その他	△490
<b>為替の影響額 △191</b>	

# 財政状態 および キャッシュ・フロー

(百万円)

(億円)

	2021年度 (2022.3)	2022年度 1Q	増減額
資産合計	350,981	<b>362,580</b>	11,598
流動資産	229,420	<b>237,849</b>	8,428
固定資産	121,561	<b>124,731</b>	3,170
負債合計	92,871	<b>93,512</b>	640
流動負債	45,875	<b>46,799</b>	923
固定負債	46,996	<b>46,713</b>	△283
純資産合計	258,109	<b>269,068</b>	10,958
自己資本比率	68.3%	<b>68.8%</b>	+0.5pt



	2021年度 (2022.3)	2022年度 1Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	92,751	<b>95,902</b>	3,151	3,806
商品及び製品	10,247	<b>10,368</b>	120	233
仕掛品	13,614	<b>13,054</b>	△560	110
原材料及び貯蔵品	68,889	<b>72,480</b>	3,590	3,462

01

2022年度 第1四半期決算概況

---

02

**国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況**

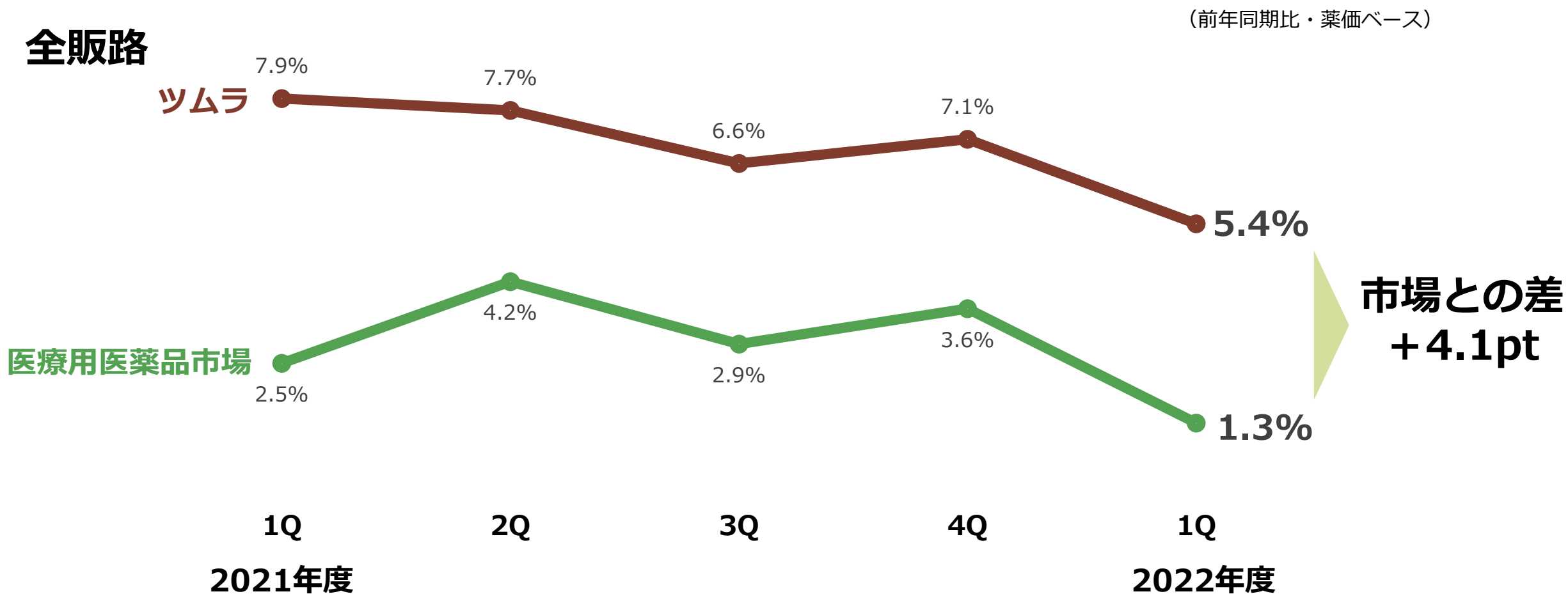
---

03

2022年度業績予想

---

## 第1四半期は前年同期比5.4%の伸長、市場との差は+4.1ポイント



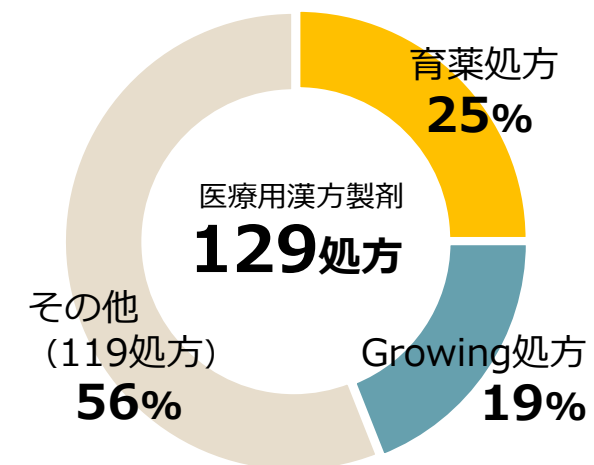


# 育薬処方・Growing処方 売上高

(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2021年度1Q	2022年度1Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	2,430	2,505	+74	+3.1%
	2	54 抑肝散	1,872	1,933	+60	+3.2%
	4	43 六君子湯	1,770	1,860	+90	+5.1%
	8	107 牛車腎気丸	888	932	+43	+4.9%
	23	14 半夏瀉心湯	345	359	+13	+3.9%
育薬処方合計			7,308	7,591	+282	+3.9%
Growing 処方	3	41 補中益気湯	1,818	1,881	+63	+3.5%
	5	17 五苓散	1,297	1,542	+244	+18.8%
	6	24 加味逍遙散	1,205	1,296	+91	+7.6%
	17	108 人参養栄湯	484	507	+23	+4.9%
	18	137 加味帰脾湯	411	501	+90	+22.0%
Growing処方合計			5,217	5,730	+512	+9.8%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			15,852	16,956	+1,104	+7.0%
医療用漢方製剤129処方合計			28,377	30,277	+1,900	+6.7%

## 売上高構成比率



今年度より新規追加

※ 昨年度までのGrowing処方

68 芍薬甘草湯

29 麦門冬湯

## 基礎・臨床のエビデンスを構築し、診療ガイドライン収載を目指していく



人參養榮湯

<効能・効果>

病後の体力低下、  
疲労倦怠、食欲不振、  
ねあせ、手足の冷え、  
貧血



高齢者  
関連領域

身体的フレイル  
(疲労倦怠、食欲不振)

### \*フレイルとは

健康な状態と要介護状態の  
中間の状態、心身の活力が  
低下した状態



加味帰脾湯

<効能・効果>

虚弱体質で血色の  
悪い人の次の諸症：  
貧血、不眠症、  
精神不安、神経症



高齢者  
関連領域

精神・心理的フレイル

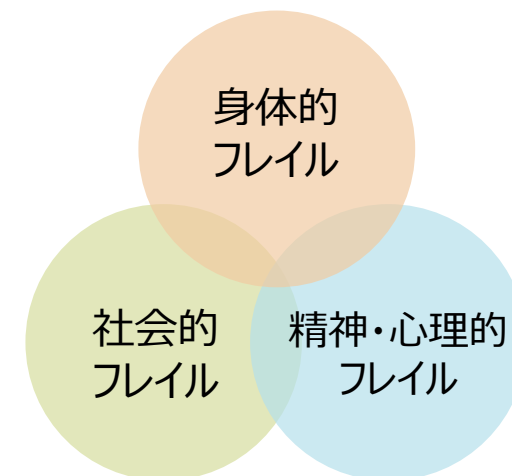
がん領域  
(支持療法)

精神不安

女性  
関連領域

不安・不眠

### \*フレイル三要素



医療従事者一人ひとりに合わせた、漢方ソリューションの提供により  
漢方市場の継続的拡大を目指す

## e-プロモーション

- ・漢方オンラインサロン
- ・WEB講演会
- ・動画ライブラリー など



## MR活動

- ・処方化・定着化に向けた活動
- ・スモールグループ勉強会
- ・講演会・研究会 など



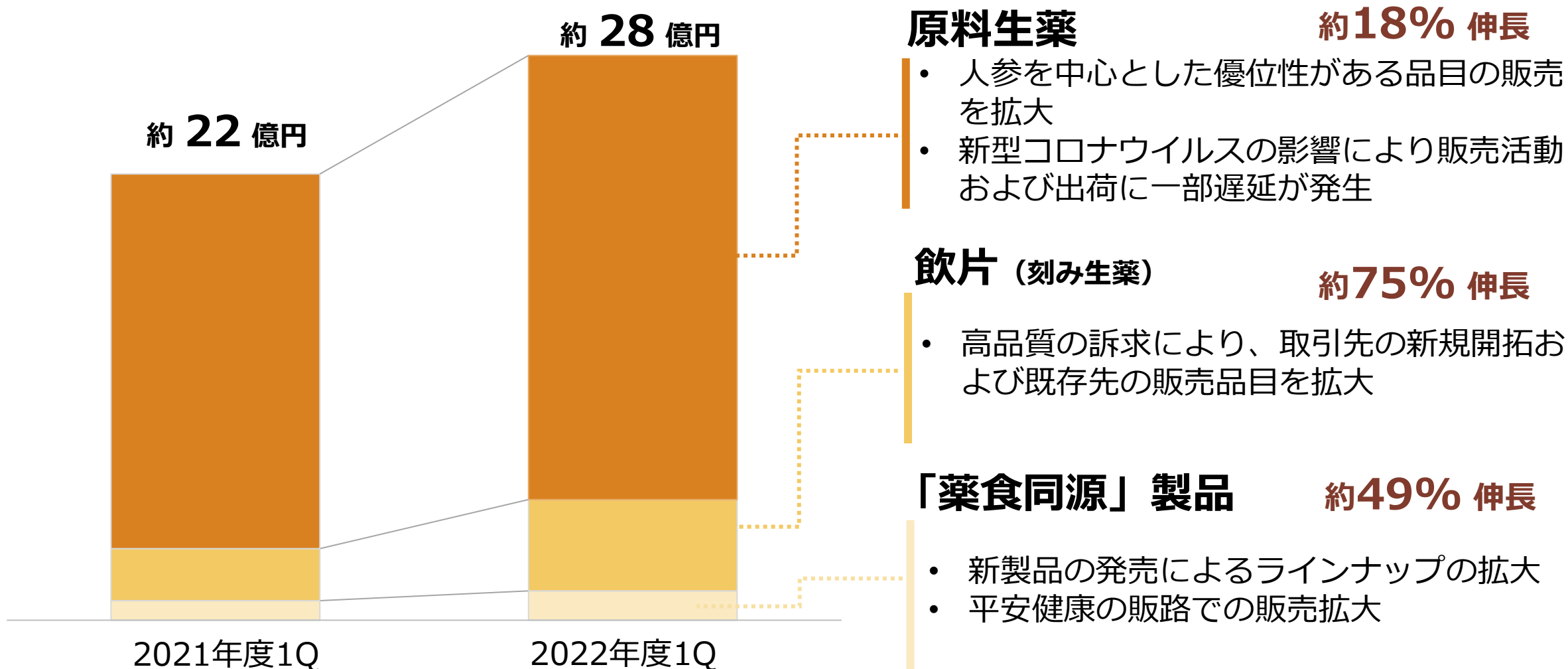
情報連携

情報の活用・分析による  
最適な施策立案

施策実施、活動改善

施策実施、活動改善

## 生薬プラットフォームにおける原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の販売を拡大



## 製剤プラットフォーム

### 健民薬業集団股份有限公司との合弁会社設立に関する意向書の締結

- ・ 中成薬の製造販売を目的とした合弁会社の設立に関する意向書
- ・ 合弁契約の締結に向け、具体的な提携内容に関する協議を進めていく

## 研究プラットフォーム

### 平安津村中医薬科技有限公司の設立

- ・ 研究プラットフォームを運営する会社
- ・ 生薬種苗から最終製品までの全サプライチェーンにおける品質標準の策定、生薬の生産・品質研究および中成薬の品質研究の機能を担う

01

2022年度 第1四半期決算概況

---

02

国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況

---

03

**2022年度業績予想**

---

# 2022年度 業績予想の修正

【百万円】	2022年度 上期 前回公表予想	2022年度 上期 修正予想	前回公表予想比		2022年度 通期予想 (修正なし)
			金額	率	
<b>売上高</b>	<b>67,000</b>	<b>68,900</b>	+1,900	+2.8%	<b>138,500</b>
国内事業	—	—	—	—	124,300
中国事業	—	—	—	—	14,200
<b>売上原価</b>	<b>33,500</b>	<b>34,700</b>	+1,200	+3.6%	<b>69,800</b>
<b>販管費</b>	<b>23,700</b>	<b>23,500</b>	△200	△0.8%	<b>47,900</b>
<b>営業利益</b>	<b>9,800</b>	<b>10,700</b>	+900	+9.2%	<b>20,800</b>
国内事業	—	—	—	—	21,200
中国事業	—	—	—	—	△400
<b>経常利益</b>	<b>10,000</b>	<b>14,000</b>	+4,000	+40.0%	<b>21,200</b>
親会社株主に帰属する <b>四半期/当期純利益</b>	<b>7,400</b>	<b>9,600</b>	+2,200	+29.7%	<b>15,000</b>

<b>配当金</b> (1株あたり)	<b>64円</b>
<b>EPS</b>	<b>196.1円</b>
<b>ROE</b>	<b>6.0%</b>

<b>売上高</b>	上期修正予想	68,900百万円	前回公表予想比	+1,900百万円
------------	--------	-----------	---------	-----------

- 国内事業において、COVID-19再拡大および酷暑等の一時的な影響により当初計画を上回っているが、通期では計画通りの水準となる見通し

<b>売上原価</b>		34,700百万円		+1,200百万円
-------------	--	-----------	--	-----------

- 上海工場の生産停止（ロックダウン）に伴う棚卸資産減により未実現利益は減少しているが、生産再開による在庫の増加により、上期および通期では計画通りの水準となる見通し

<b>販管費</b>		23,500百万円		△200百万円
------------	--	-----------	--	---------

- 中国各地におけるロックダウンに伴う活動制限により未消化があるものの、通期では計画通りの見通し

<b>営業利益</b>		10,700百万円		+900百万円
-------------	--	-----------	--	---------

<b>経常利益</b>		14,000百万円		+4,000百万円
-------------	--	-----------	--	-----------

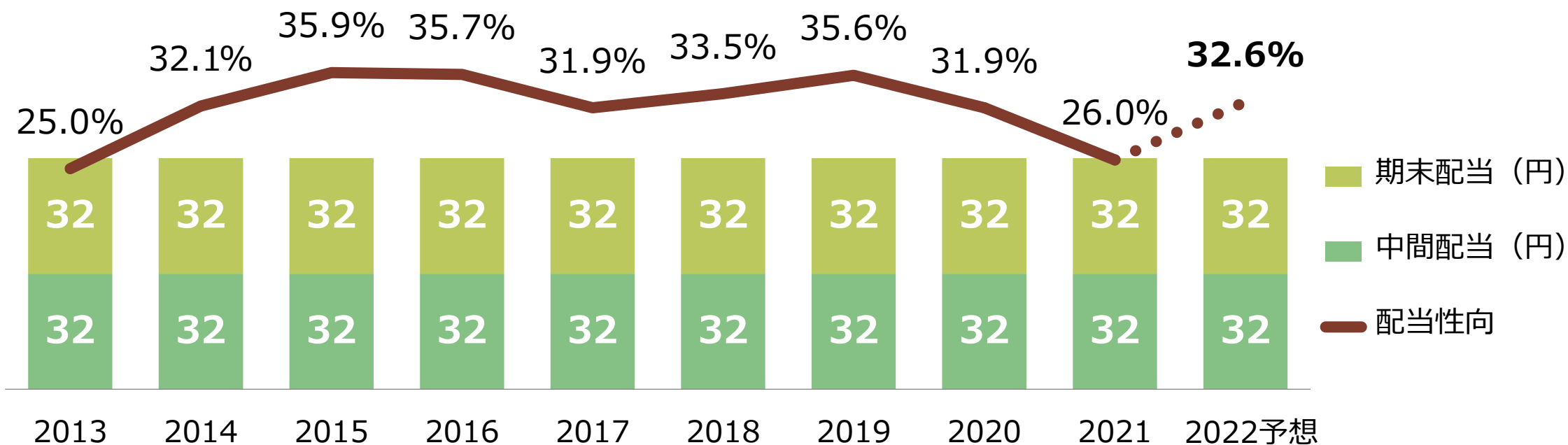
- 在外子会社への貸付金に係る為替差益が上期は約28億円（期末レート：20.37円/元）、通期では今後の為替相場の状況により、現時点では合理的に算定することが困難であるため修正なし

親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>		9,600百万円		+2,200百万円
-----------------------------	--	----------	--	-----------



## 方針

- 国内事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2022年度期末配当金・配当性向(予想)は、第87回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

## コーポレート・コミュニケーション室

### IR推進グループ

[investor\\_madoguchi@mail.tsumura.co.jp](mailto:investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp)

#### 見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

# Appendix

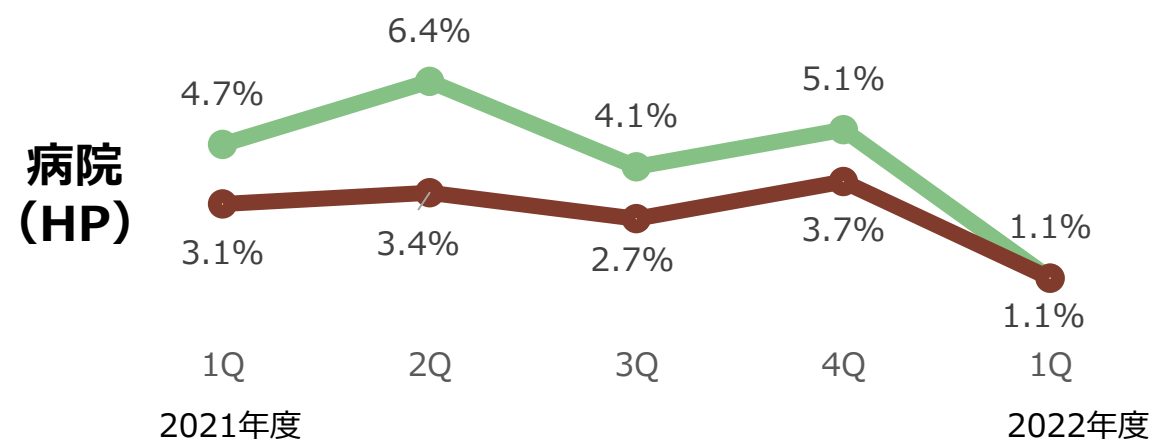
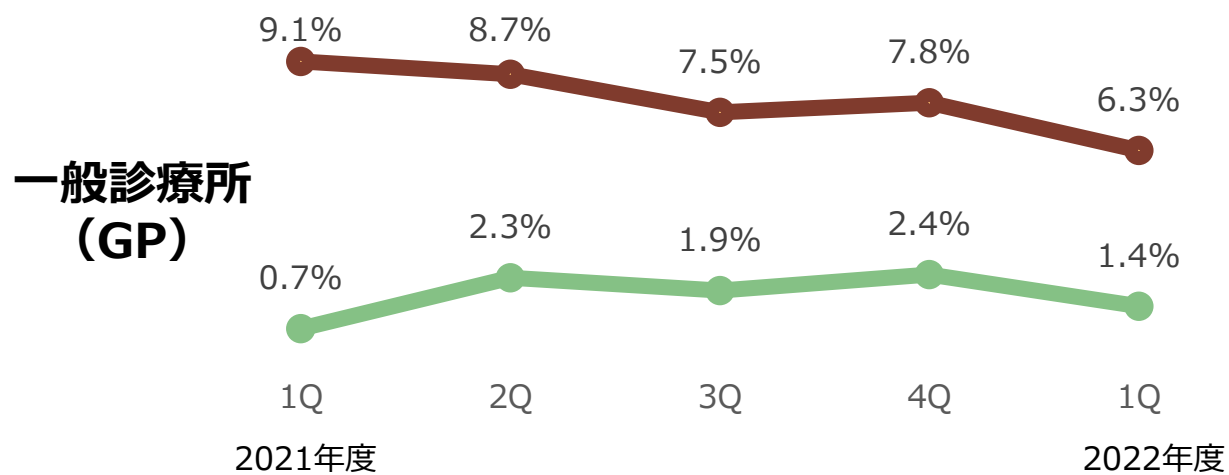
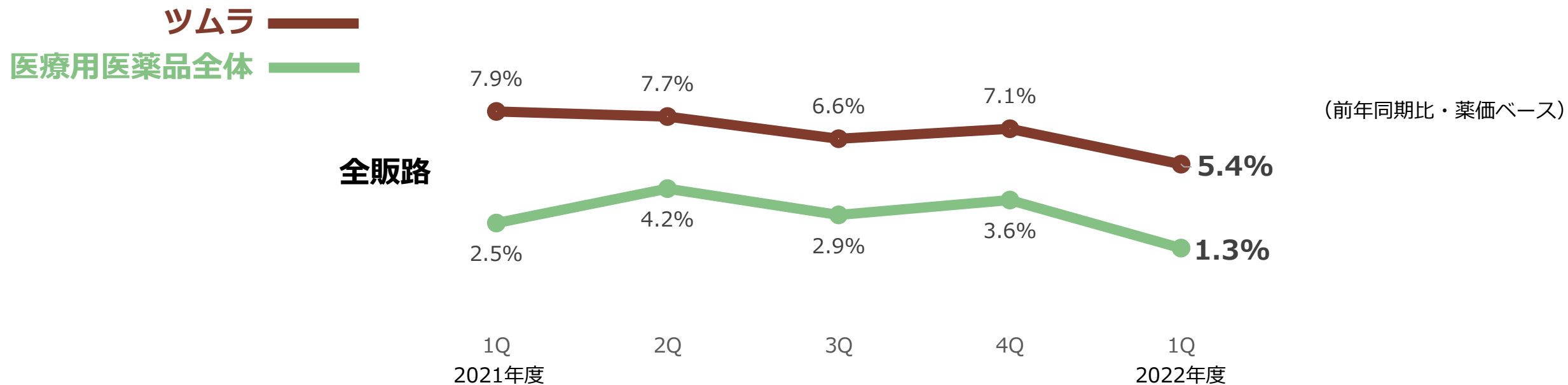
# 【開示内容の変更】セグメントとエリア別の開示について

- 2022年度から事業別セグメント情報（売上高、営業利益）を開示

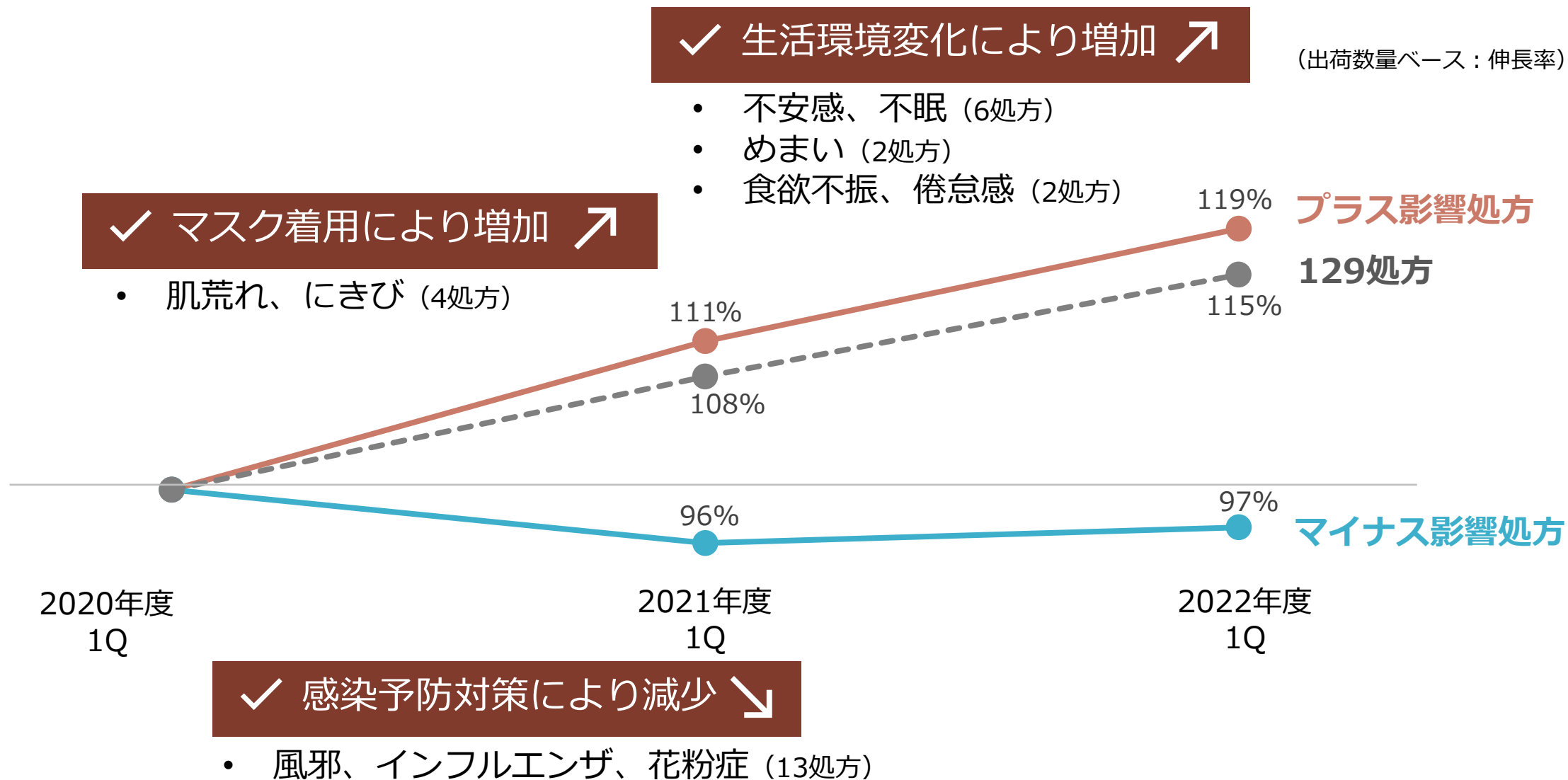
**国内事業**：外部顧客への最終販売会社が ツムラまたは国内関係会社 となる取引

**中国事業**：外部顧客への最終販売会社が 中国関係会社 となる取引

		セグメント（2022年度～）	
		国内事業	中国事業
エリア別 （2020年度～）	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療用漢方製剤</li> <li>その他医療用医薬品</li> <li>一般用漢方製剤等（国内販売）</li> <li>国内関係会社の外部販売</li> </ul>	—
	海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般用漢方製剤等（海外販売）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生薬プラットフォーム（原料生薬、飲片、「薬食同源」製品）</li> <li>製剤プラットフォーム</li> </ul>



## 1Q比較 プラス影響処方とは129処方を約4%上回る伸長



## 処方機会が増加した疾患

### 精神疾患

精神不安や不眠

加味逍遙散  
加味帰脾湯  
半夏厚朴湯  
柴胡加竜骨牡蛎湯  
など 計6処方

### めまい

心身の不調によるめまい

半夏白朮天麻湯  
苓桂朮甘湯  
(五苓散) ※

### 皮膚疾患

マスク着用に伴う  
にきびや皮膚炎

桂枝茯苓丸加薏苡仁  
十味敗毒湯  
清上防風湯  
荊芥連翹湯

### 補剤

病後の疲労倦怠、食欲や体力などの  
低下した状態に用いる処方群

補中益気湯 十全大補湯

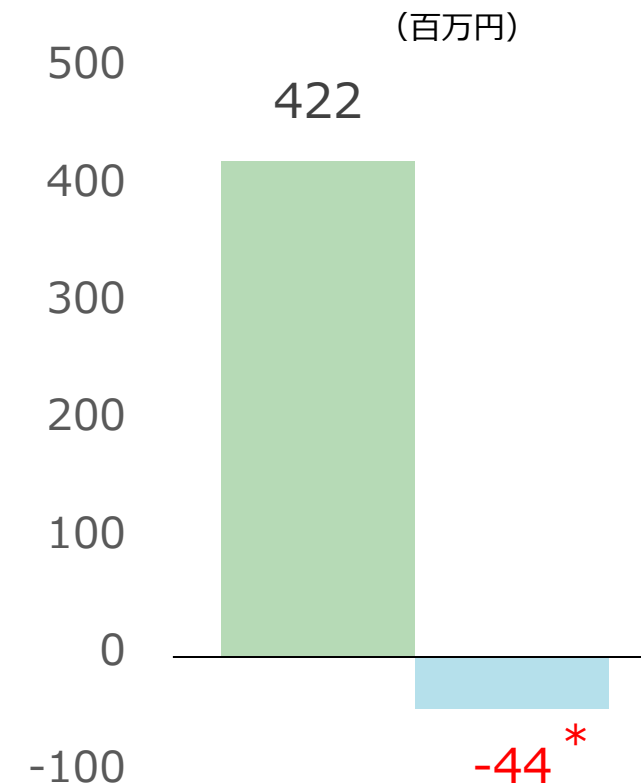
### 風邪関連

## 処方機会が減少した疾患

感染予防対策による呼吸器疾患の患者数減少

葛根湯、柴胡桂枝湯、麦門冬湯、桂枝湯、参蘇飲、  
柴陷湯、麻黄附子細辛湯 計7処方

処方機会の増減による影響  
(2022年度1Q)



(金額：前年比・出荷ベース)

\*前年比減少7処方のみ算出

※五苓散はめまい以外での処方、機会も増加しているため算出根拠から除外

高齢者関連領域		がん領域 (支持療法*)	女性関連領域
精神・神経疾患	フレイルに伴う諸症状	副作用の軽減など	産婦人科疾患
<b>育</b> 抑肝散	<b>G</b> 人参養栄湯	<b>育</b> 六君子湯	<b>G</b> 加味逍遙散
<b>重</b> 抑肝散加陳皮半夏 + 関連処方	<b>G</b> 加味帰脾湯	<b>育</b> 半夏瀉心湯	<b>G</b> 加味帰脾湯
	<b>G</b> 補中益気湯	<b>育</b> 牛車腎気丸	<b>重</b> 当帰芍薬散 + 関連処方
呼吸器疾患	<b>育</b> 牛車腎気丸 + 関連処方	<b>G</b> 加味帰脾湯	その他
<b>重</b> 麦門冬湯 + 関連処方	消化器疾患	<b>G</b> 補中益気湯	<b>育</b> 大建中湯
循環器疾患における周辺症状	<b>育</b> 大建中湯	<b>重</b> 十全大補湯 + 関連処方	<b>G</b> 五苓散
<b>G</b> 五苓散 + 関連処方	<b>育</b> 六君子湯 + 関連処方		<b>重</b> 芍薬甘草湯 + 関連処方

- 育** 育薬処方：医療ニーズの高い領域において新薬治療で難渋している疾患で、医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に的を絞り、エビデンス（科学的根拠）を確立する処方
- G** Growing処方：育薬5処方続く注力処方として、治療満足度や薬剤貢献度の低い領域でのエビデンス構築（安全性・有効性データ等）により診療ガイドライン収載を目指す処方
- 重** 重点処方：重点領域での漢方の浸透に向けて、育薬処方およびGrowing処方に次いで重要な処方

\* 支持療法：がんそのものに伴う症状や、がん治療による副作用の症状を軽減させる等の治療



## 日本事業向けのエキス粉末（中間製品）の製造を担う拠点として設立



### 第1期工事

- ・ 第1SD（エキス粉末生産）、倉庫などを建設
- ・ 2022年5月竣工、2022年度末に本稼働予定
- ・ 投資額 約150億円

### 第2期工事

- ・ 第2SD（エキス粉末生産）を建設
- ・ 2023年度竣工、2025年度に本稼働予定
- ・ 投資額 約100億円

### 設立により得られる効果

- ・ 日本事業向けエキス粉末の生産能力 : **20% 増**
- ・ 自動化による物的労働生産性向上<sup>※1</sup> : **13% 向上**
- ・ 省エネ技術導入によるCO2排出量削減<sup>※2</sup> : **5,700t/年 削減**
- ・ 冷却水の再利用等による取水量削減率<sup>※3</sup> : **70% 削減**

※1 上海の既存工場との比較

※2 省エネ技術を導入しなかった場合との比較（第1期、第2期合計）

※3 天津工場2期における計画値